

相川 昭和の懐古

平成 30 年 12 月 2 日
山梨大学名誉教授、工学博士
数野寛

まえがき

私は間もなく 93 歳を迎える老人です。大正の末期に生まれ、相川の地で育ち教育を受けて成人し、戦時中の軍需工場への学徒動員、終戦後就職のため他県で過ごした僅かの期間を除けば、専ら相川の地で生活し、この地で働かせていただき、何時か知らぬ間にこの年齢になってしまいました。

昭和初期を語れる人もほとんどいなくなりました。私の専門は電気工学ですので、歴史学的事、考古学的事は全く知りません。過日、相川地区連合会の役員の方より、相川の子供に素人から見た昭和初期の様子など話してくれませんかと依頼がありましたが、あいにく健康を害し歩行困難となり断りましたが、それなら何か文章にしてくれませんかということで、思いつくまま文章にしてみました。

相川小学校の創立

武田勝頼自決によって武田氏滅亡とすると相川小学校の行進曲、応援歌と言われている歌詞の中の「武田氏ゆきて 3 百年」というのは丁度相川小学校創立の明治 16 年(1883 年 4 月 23 日)に相当する。

入学の頃

私が入学したのは昭和 7 年(1932 年、86 年前)で当時は、「西山梨郡相川村立尋常高等小学校」が正式な名称でした。

伏見(商店)さんの所の坂を下っていくと二分されていて、北半分は少し高く村役場の敷地、南半分が学校の運動場、東南の隅に手押しポンプの水飲み

場、足洗い場、南側に高低の鉄棒、その西にロクボクと言われる梯子を連ねた体育用具のあったのを思い出す。

当時の世相は、中国との争いが絶えず、昭和6年9月に始まり2年続いた満州事変、昭和7年1月始まり間もなく終了した上海事変、この戦いで日本兵士3人(北川、江下、作江)が長い筒に爆薬を詰め敵の鉄条網を破壊した勇敢な功績が肉弾三勇士の名をもって広く称賛された時代であった。

運動場を横切ると奉安殿(天皇・皇后の御真影、教育勅語、皇室関連の校長先生が読まれる詔書など格納)があり、その前を通る時は脱帽礼拝することになっていた。

校舎校庭の概要

大きな建物が三つあった。

北校舎・・・木造2階建て、東西に長く教室数が多い。

本館・・・南北2階建て、1階は北より小使室、校長室、職員室、2階は講堂で一部が音楽室。

南校舎・・・東西に配置で平屋建て、教室数も少なく北校舎の半分の長さ、古風の建物で窓は和紙の障子張り、部屋は木製の板戸で仕切られ、天井は吹き抜けで隣の部屋の声が筒抜けであった。

峰本部落の氏神本館の西、北校舎の西前に峰本部落の氏神様が板塀で囲んで祀られていた。本館の表(東)、裏(西)には赤松の大木が何本かあった。

学級構成

各学年大体2クラス編成で三年生までは男女共学、四年生以上が男子クラス、女子クラスに分かれた。一年生クラスの隣には、高等科の女子クラスがあり、日常生活の補助や掃除の手伝いをしてくれた。

南校舎の改築

私どもが四年生(昭和10年)になった時改築が始まった。それ以前に村役場は武田神社前の元JA(農協)の建物に移り一階は役場、二階は会議室だったがその会議室を借り、午前組、午後組の二部授業が行われた。半日遊べるとい

うので喜んだものだった。

四大節

年間を通じて四つの式典があった。その日は授業はなく祝いの品を貰って帰った。

新年祝賀会(四方拝)・・・1月1日、みかん3個をもらった。

紀元節(建国祭)・・・2月11日、神武天皇即位の日

天長節・・・4月29日、昭和天皇降誕の日

明治節・・・11月3日、明治天皇降誕の日

紀元節、天長節、明治節には日の丸と旭日旗の交差した絵の描かれた袋に入った楕円形の菓子パン(通称:学校パン)をいただき、実においしかった。

武田神社との関係

武田信玄が三河野田城攻略中に病死したのが天正元年(1573年)4月12日、53歳であった。武田神社が創建されたのが大正8年(1919年)で来年平成31年で創建100年を迎える。信玄没した4月12日が例大祭の日と定められた。村内の神社として相川小学校とは密接な関係を保ってきた。

月命日の12日は、全校生徒が神前に参列して礼拝し、山本清先生のタクトで神前に捧げる歌「このしず宮に鎮まりて・・・云々」を斉唱した。

4月は特別で11日には参拝後4年生以上だと思いがほうきを持って境内各所を清掃し良く12日の祭りに備えた。

武田神社の祭典、露店の概要

昭和初期部落には青年団、消防団が充実しており、神輿行列の構成には事欠かないようでしたが、二十四将の騎手、騎馬がどのように徴集されたかは私は知らない。

祭りは12,13日の両日にわたり、12日は祭りの行列は桜のトンネルを抜け、桜の花びらを散らしながら優雅に甲府の街に下って行き、遊亀公園の稲積神社で一泊することになった。翌13日稲積神社から帰還した神輿は和田の法

泉寺(勝頼ゆかり)に向かい、ひるがえって上積翠寺の積翠寺(信玄誕生の地)まで行き神社に戻る長旅であった。

当時、露店の売り物で記憶に残るのは、小さい三角帽子状のアイスクリーム、モツのフライのソース漬け、金魚すくい、ヨーヨー釣り、黄色に染めた雄鶏のひな等々であった。

見世物としては、広場の西側に直径10m位の金網の円筒内をオートバイが遠心力を利用して筒の壁に垂直に手離しで様々な曲乗りを見せてくれたのが印象的だった。20〜30銭も駄賃をもらえば、結構祭りが楽しめた。

武田神社の祭りと地域とのかかわり

昭和の初めころは、桃の節句と武田神社のお祭りを重ねてお祝いするのが常であった。節句のご馳走を小さなお重に詰め、ひょうたん型の瓶に甘酒を入れ、部落の男女仲の良い同志が誘い合って武田神社に行き神楽を見たり露店で買い物をしたり、適当な空き地に陣取って互いのご馳走を交換し合ったり、他部落の仲良し友同様にして親交を深め、唯一少年、少女の社交の場でもあった。

講堂の思い出

本館2階の講堂には、教壇に向かって左側高い壁に武田信玄公の剃髪座像の大きな額がかかげられ、郷土英雄の勇姿が学校の宝としてあがめられていた(この額今いずこ)。右側に勤王志士山県大武の肖像、望月春江だか横山大観だかの真鯉の日本画がかかげられていたように思う。

冬の弁当保温器

昼飯は近くの者は家に食べに帰ったが、大部分は弁当持ち、平素は当番の配ってくれる一杯のお湯のみだが、冬は保温器で温めてくれた。木造トタン張り、クラス数だけの差し込みの枠があり、引き出し枠も隙間のある板づくりで暖気が通りやすくしてあり、下部にいくつかの木炭火鉢を置き、低学年は下方火鉢に近く、高学年は火鉢から遠い上方が割り当てられた。農村子弟の弁当は漬物、野菜の煮物、魚の切り身、卵焼き等々、扉を開くと鼻をつく百香のかお

りで大変のものだった。給食時代の今なら到底考えられない懐かしい思い出だ。

修学旅行の費用捻出

修学旅行は低学年次は6年生の秋、高学年次は2年生秋に行われた。当時、相川は米、麦、養蚕を主とする農家の子供が大部分であった。親が養蚕で夏蚕を飼う時期に学校から蚕の種数グラムが提供され、それを親の飼育する大口の蚕と共に飼育し、完成した繭を約2貫匁(8kg)白い布袋に入れて学校に収め、一括業者に売って金に換えた。何円に相当したかは記憶にないが費用の大部分を賄うことができた。現在では想像もつかない農村特有のやり方に懐かしさを感じる。

修学旅行

奈良、京都を中心とした関西旅行であった。高学年何人か低学年何人かでグループを作り高学年のリーダーがその面倒をみてくれた。

苗代の害虫駆除

農家にとって稲苗の育ちの良し悪しは大事な問題である。地面に直接種をまき自然の成長にまかせたので農薬は一切使わない。そこで大事なのは害虫駆除である。

その奉仕に小学生が当たった。低学年生(4年生以上)と高学年生(高等科)が数名のグループを作り、普段あまり行くことのない他部落が駆除地区として割り当てられた。長靴、1m位の細い棒、紙の封筒を用意し、棒で苗の頭を何回かなで、舞い立つ蛾、目にとまった青虫などをとって封筒に収め、学校へ持ち帰り一括焼却処分した。上級生、下級生が仲良くなり、村中を知る良いチャンスでもあった。

農繁休暇

時の記念日（6月10日）をはきんで一週間の農繁休暇があった。農業機械など一切ない当時は、農家にとっては猫の手も借りたい程の忙しさだったので、この休暇中に主に田植えの手伝いなどを行った。

学校田の田植え

運動場の南、現在武田神社の駐車場になっている所に大きな学校田が2枚あり、高学年生が田植えを行い、低学年生がこれを見学した。

甲府市制祭と秋季大運動会との関係

甲府に市制が敷かれたのは明治22年10月17日（1883年、平成30年で129年になる）であり、祝典が盛大に行われ、花火は上がり、商店街は活発で相川村をはじめ近隣の村々の人達は買い物を楽しんだ。

相川小学校にとっては、この日求めた菓子やご馳走が翌10月18日（実施日固定）の秋季大運動会の弁当やおやつとなった。この関係は長く続いた。

各部落の少年、少女の活動

部落の活動に参加したのは男女とも4年生以上であった。各部落には顧問の先生が割り当てられ、相談や指導に当たってくれた。各部落で多少の差異はあったろうが、下積翠寺には次のような行事があった。

反省会

月に一度部落の公会堂に集まり、好ましくない行動にはお互いが批判、忠告を与え、二度と繰り返さぬよう注意しあったが、今のような陰湿な「いじめ」とは違ってさっぱりとしたものであったように思う。

早起き会

早朝夜明けを待って、上積、下積の境に近い白山神社(下積の氏神)に集まって、ほうきで境内や石段を掃き清め、社内の床に雑巾がけして清掃につとめた。

共同作業

年に二度行われた。一度は「わらびとり」、二度目は「ほうきとり」であった。男女共々高学年生が低学年生を引率指導し、里山に入り、芽吹いて間もないというおいしい「わらび」を取り、適当の大きさに束ね父兄の家を回って買ってもらった。

「ほうきとり」は秋近く「ほうきぐさ」の葉が落ちる頃、これを刈り取って藤づるや針金でしばって手頃のほうきに仕上げ、同じく父兄の家を回って買ってもらった。

得たお金は、娯楽会の費用などにあてるため蓄えられた。この共同作業を通じ低学年生は高学年生からいろいろの作業の「コツ」を教えてもらい、上下親交の実が上がって良かったと思う。

娯楽会

私の所属する下積翠寺の部落では夏休み中、年に一度の娯楽会がもたれた。上級生、下級生連れてって遊亀公園動物園見学に行った。上級生が各自に「カキ氷」を買ってくれた。

当時相川小学校にはプールはなかったので、動物園からの帰り飯田のプールにまわり、広いプールで自由に泳いだ。プールから上がって上級生が土手で売っていた「モツ」のフライにソースを浸した「くし」を買ってくれた。

このソースのちょっとした辛みが好ましく懐かしく思い出される。このような娯楽会は、上級生と下級生のより深い親交をもたらすものであり、ほほえましい良い思い出である。

おわり
平成 30 年 12 月 吉日